

当協会は、今年の12月4日に創立から60年を迎えます。これまで活動を継続できたのは、ひとえに県民、地域の皆さま、協会を支えて頂いた皆さまのご指導、ご支援によるものと深く感謝しています。

60周年を迎えるにあたり、「おかげさまで60年 住みよい未来をこれから」というキャッチコピーのもと、今年度は各種の記念事業を計画しています。

12月1日には、創立記念式典を広島県公衆衛生大会と併せて広島国際会議場フェニックスホール(広島市)において開催します。また、従来より協会本部周辺で行っている地域清掃や自然観察会などの社会貢献活動に加えて、広島県の誇るべき世界遺産である宮

島に生息する希少生物のミヤジマトンボの保全活動や、「里山・里海づくりプロジェクト」と名づけた沿岸部の干潟と山間部の里山の周辺に住む人たちが触れ合う機会の創出などの新たな事業も計画しています。

一方、これまで各公衛協で開催されている清掃活動やウォーキングイベントなどの各種の行事、事業にも積極的に参加させていただきたいと考えています。

これらの記念事業を通じて、県民、地域の皆さまへの恩返しと感謝の気持ちを

示し、そして、これからも当協会職員一丸となって「みんなの生命(いのち)をまもりたい」を基本理念に、地域社会の発展と住みよい未来の創造に全力で取り組む決意をお示ししたいと思っています。

環保協

感謝の気持ちを伝える記念事業



材料試験業務で災害協定 全国初広島・鳥取・岡山の3試験機関



握手を交わす代表者(右当会理事長佐藤均)

平成29年3月8日に鳥取県倉吉市で、当協会と(公財)鳥取県建設技術センター、(公財)岡山県建設技術センターの3機関で、「災害時等における材料試験業務の相互支援に

関する協定書」の調印式を行いました。昨年10月21日、鳥取県中部で震度6弱の地震が発生し、大きな被害があったことから、鳥取県建設技術センターの要請を受けて、協定の締結が実現しました。

この3機関は、建設工事材料の品質を確保するため、コンクリートをはじめ、土質、骨材、鋼材などの試験業務を行っており、材料試験機関の災害時における協定は全国初となります。

近年、地震、水害など大規模な自然災害が発生しており、このような災害に被災すると、試験機能が停止して、建設工事の進捗や品質確保に影響を与える恐れがあります。また、感染症等の病

気により、多くの職員が出勤できないことも想定されます。こうした緊急事態に備え、安定した試験業務を確保するため、協定の締結を行い、県境を越えた災害時の相互支援が可能となりました。

災害時の支援内容は、主に「材料試験の代替業務」や機器、備品、試薬、消耗品等の「応急物資の調達等」としています。また、災害時だけでなく、平常時においても試験業務の情報共有、技術者の交流や職員の危機管理意識の向上など、相互の連携強化を行うこととしています。

3機関ともJNL A(工業標準化法試験事業者登録制度)の登録機関として試験レベルも確保しており、さらに、公的試験機関等で構成する建設協(地方公共団体建設技術試験研究機関連絡協議会)の中国・四国ブロックのメンバーでもあります。

この協定書の締結をきっかけに、今後、さらに交流を深め、災害時だけでなく、試験技術の向上や職員の危機管理意識の向上などでも相乗効果が期待されます。

災害協定を結んだ3機関

広島県	一般財団法人広島県環境保健協会
鳥取県	公益財団法人鳥取県建設技術センター
岡山県	公益財団法人岡山県建設技術センター

(環境生活センター)

「男性70・93歳で33位」「女性72・84歳で46位」。なんのデータかわかりになりますか?広島県の「健康寿命」と全国順位です。「健康寿命」とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。厚生労働省の国民生活基礎調査を基に算定されます。広島県では、健康増進計画「健康ひろしま21」で「のぼそう!健康寿命」をキャッチフレーズに、さまざまな取り組みを進めています。

のぼそう!健康寿命

ひろしまヘルスケアポイント開始

日々の運動、減塩と栄養バランスのとれた食生活などによる病気の予防、また、健診による早期発見・治療で重症化を防止することなど、県民の皆さまに広く呼びかけておりますが、なかなか成果にはつながっていません。このため本県では今年3月から、県民の皆さま一人ひとりに、楽しみながら健康づくりに取り組んでいただける「ひろしまヘルスケアポイント」の制度を開始いたしました。

献血で30ポイントをゲットするなど、ポイントランキングのトップ集団を走っておりです。参加してみようと思われる皆さんは、「ひろしま健康手帳」で検索してください。まずHMAカードの発行を受け、その後はスマホの専用アプリなどで簡単に日々の健康管理とポイント獲得ができます。是非多くの皆さんのご利用をお願いいたします。

(広島県健康福祉局長 菊間 秀樹)

おかげさまで60年



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~

広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号 (広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

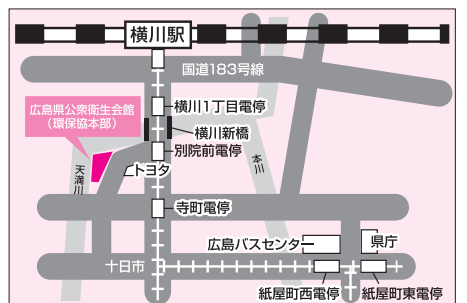
かんぽきょう

検索



~みんなの生命(いのち)をまもりたい~

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。



専門研修は実習を通して、活動に必要なスキルを習得する



地域活動支援センター・脱温暖化センターひろしまは、環境協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議

平成29年度地域活動支援センター事業概要

専門研修のコースを追加し人材養成研修を充実

会(以下、公衛協)を主体とした「コミュニティにおける健康づくり、環境づくりの支援を行っています。第2期中期経営計画(平成28～30年度)の2年目となる平成29年度は、昨年度に引き続き「コミュニティ活動の活性化」地域力の向上、環境協のミッション遂行」を実現するため、「ヒト」「モノ」「カネ」「シクミ」の視点で中期的な事業展開を図ります。

①公衆衛生活動の支援

平成28年度に引き続き、人材養成(基礎研修の実施支援、公衛協活動に継続的に関わる中堅推進委員の育成支援)および交流促進、中堅推進委員が活躍できるように(規約の改正)づくり、県内共通事業重点メニューの実施支援や健康づくりメニューの開発、地域活動支援基金を活用した地域

コミュニティ活動助成とポスター・標語コンクール事業の拡大などを通じて、活動の活性化と組織強化を推進します。

②地球温暖化対策の活動支援

地球温暖化防止活動推進員の養成・育成に取り組みほか、地球温暖化

対策地域協議会と連携して広島県の「家庭エコ診断事業」を推進し、環境省が推奨する国民運動「COOL CHOICE(クールチョイス)」の周知と賛同の呼びかけ、地域学習会の強化と省エネ実践活動の普及を図ります。

③部門間および外部団体との連携強化

関係団体の活動実績の収集と発信に努め、情報の共有・活用を促進し、公衛協と地球温暖化対策地域協議会の連携強化を進めるほか、部門間及び外部団体との連携強化を図ります。

全県の公衆衛生推進協議会関係者が一堂に会して情報交換などを行う「第56回環境保健夏季大学」を7月6日～7日にツネシシまなみビレッジ(福山市)で、「第58回広島県公衆衛生大会(当協会の60周年記念式典と同時に開催)」を12月1日に広島国際会議場フェニックスホール(広島市)で開催します。その他の研修会・会議の日程は表の通りです。

人材育成事業では、昨年度に引き続き、専門研修の参加旅費を当会が負担して、公衛協で活躍が期待できる人材の育成・養成を行います。『基礎研修の開き方コース』は、要望のあ

平成29年度地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)事業スタート

地域の「環境づくり」「健康づくり」の財源

公衆衛生活動の資金募集事業

地区衛生組織活動資金募集は、「私たちの地域は私たちの手で」という思想のもと、地域ぐるみの公衛協活動を行うための活動資金を集めるものです。昭和35(1960)年2月、世界保健デーの4月7日を「健康感謝の日」と定めて以来、平成29年度で第58回を迎えます。

募金は、市町公衛協・環境協・事務費に配分され、公衆衛生活動に役立てられます。

公衛協に配分される募金は、ごみの減量化と分別・リサイクル活動の推進、地域清掃・美化活動、脱温暖化普及啓発活動などの環境づくり事業や、食育、ウォーキング、献血、がん検診受診勧奨



平成29年度の募金チラシ(A4)

などの健康づくり事業に活用されます。募金の使途は公衛協によって異なりますので、各市町の公衛協事務局へお問い合わせください。

環境協配分金は、公衆衛生推進手帖や県共通事業の「公衛協発・ひろしま美化大作戦」、「1万人のエコチェック事業」、「1万人の食チェック事業」、「公衛協発ウォーキング事業」、「がん検診へ行こう!キャン

ペーン事業」の活動支援グッズの作成、公衆衛生推進委員の養成に係る研修、環境と健康の学習ルームの運営(グッズの貸し出し)などに活用しています。

事務費配分金は、募金事業のPRポスターやチラシ、募金回収袋の作成、振込手数料などに充てられています。

このように、みなさまからお預かりした募金は、地域の公衆衛生活動のために使われ、コミュニティの「環境づくり」と「健康づくり」に役立てられています。募金の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

このたび、4月1日付けで「環境・健康募金」要綱の一部を改正しました。2017公衆衛生推進手帖に掲載している要綱の修正用シールを作成しましたので、お手元に届いたら48・49ページに貼り付けてください。

平成29年度主要な会議及び研修スケジュール

月	日	事業名(開催場所)
4	25日(火)	公衛協事務担当者会議①(広島県公衆衛生会館(広島市))
5	30日(月)	専門研修「ごみ減量・3Rコース」(広島県公衆衛生会館(広島市))
6	2日(金)	【脱温】脱温暖化推進員新規養成研修①(未定)
	8日(木)・9日(金)	専門研修「広島県がん検診推進員養成研修」(8日:広島県公衆衛生会館(広島市)、9日:環境協東部支所(福山市))
	21日(水)	代表者会議定例会・募金委員会①(広島県公衆衛生会館(広島市))
	22日(木)	【脱温】脱温暖化推進員新規養成研修②(未定)
7	27(火)	専門研修「ごみ減量・3Rコース」(環境協東部支所(福山市))
	6日(木)～7日(金)	第56回環境保健夏季大学(ツネシシまなみビレッジ(福山市))
	24日(水)	代表者会議専門部会①(環境)(広島県公衆衛生会館(広島市))
8	25日(木)	代表者会議専門部会①(健康)(広島県公衆衛生会館(広島市))
	26日(金)	代表者会議専門部会①(組織)(広島県公衆衛生会館(広島市))
9	13日(水)・14日(木)・15日(金)	専門研修「広報・ツールづくりコース」(13日:広島県公衆衛生会館(広島市)、14日:未定、15日:環境協東部支所(福山市))
	26日(月)	公衛協事務担当者会議②(広島県公衆衛生会館(広島市))
11	14日(火)	代表者会議専門部会②(環境・健康)(広島県公衆衛生会館(広島市))
	15日(水)	代表者会議専門部会②(組織)(広島県公衆衛生会館(広島市))
12	1日(金)	第58回広島県公衆衛生大会(環境協60周年記念式典)(広島国際会議場フェニックスホール(広島市))
	8日(金)	【脱温】脱温暖化推進員新規養成研修③(未定)
1	18日(木)～19日(金)	専門研修「企画づくりコース」(未定)
	31日(木)	代表者会議定例会・募金委員会②(広島県公衆衛生会館(広島市))
2	9日(金)	【脱温】脱温暖化推進員フォーラム2018(未定)
3	14日(水)・15日(木)・16日(金)	ブロック会議(広島県公衆衛生会館、環境協東部支所、北部エリア)

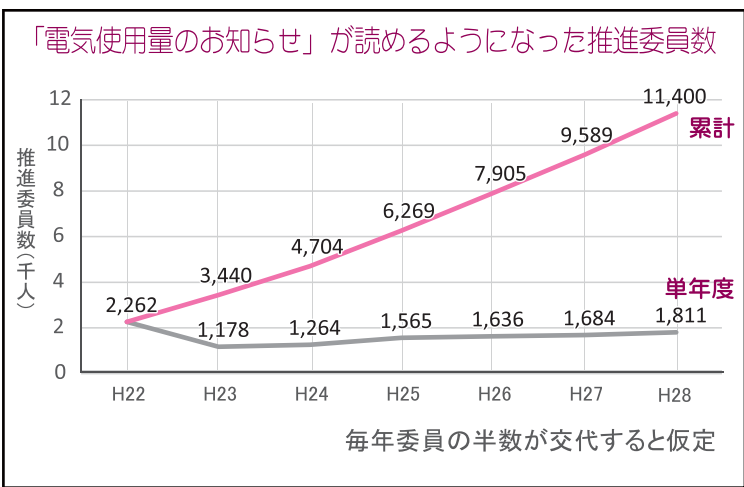
平成28年度重点事業振り返り

環境協では、公衛協活動の支援策として、環境づくり・健康づくり活動メニューの提案を行っています。平成28年度に展開した「全県共通事業重点メニュー」の成果を紹介します。

全県共通事業重点メニューは、支部・地区・学区公衛協で実践できるプログラムであり、積極的に地域の公衆衛生活動に取り入れていただきたい事業です。また、重点メニューには、環境・健康募金の環境協配分金の一部を充てて作成している活動支援グッズがあり、これらの活用を通じて募金事業への理解も促しています。

●「1万人の エコチェック事業」 お知らせが読める人が1 万人突破

県内約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、家庭で消費するエネルギーの削減運動を展開する事業で、平成22年度から継続していま



6年間で1万1,400人が電気使用量のお知らせを読めるように

内容は、8月の検針日に含まれる約1カ月間、家庭で電気の省エネに取り組んだ後、前年同月の使用量と比較し、成果を数字で見え、省エネの効果を体験・体感し、周囲の住民に広めて、「家庭の省エネ」を地域みんなで取り組む環境づくりを目指す。

ています。そのために、平成30年度には推進委員の50%が参加することを目標にしています。

平成28年度は実践率40%となり、前年比で3.6%増加しました。2年に1度委員の改選があると仮定すると、これまでに1万1千400人が電気使用量の

お知らせが読めるようになり、地域の人たちを核に、地域の省エネ活動が広まることを期待します。

●公衛協発・ ひろしま美化大作戦 県内で12万人が事業に 参加

次世代に住みよい環境を残すこと、継続して自然の恩恵を享受できる環境を維持することを目的に、地域清掃・美化、水質改善・保全、里地山づくりの3テーマの取り組みを支援するもので、平成23年度から継続しています。

この事業では、活動場所ごとの活動記録を蓄積し、広く住民に公表して、公衛協のPRに活かすこともねらいとしています。

昨年度は、公衛協が関わる事業が、延べ267回展開され、12万1千422人が参加しました。支部・地区学区単位では、まだ報告されていない事業が展開されていると考えられますので、引き続き、公衛協の活動成果の見える化が課題です。今年度は、瀬戸内海の環境保全に関する広島県計画の実現に協力して、公衛協の地域美化活動の実績を行政と共有し、豊かな瀬戸内海を目指します。

●「1万人の 食エコチェック事業」 記録方法変更で実践率UP

健康維持のために、公衆衛生推進委員自らが食生活の傾向を知り、健康づくりにつなげることをねらいとする事業で、平成23年度から継続しています。

事業内容は、チェック期間を定め、食べた食品をカードに記載するもので、実践率50%をめざしています。

平成28年度は、これまでの食品数チェックから食事バランスを確認する方法に変更し、各自で食生活の傾向が把握できました。関連記事4面。

実践率は36%で、前年度より3%増加しました。平成29年度は、バランス重視のチェックを継続し、国の第3次食育推進基本計画の目標である「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の割合70%以上の達成を主な視点に取り組みを行います。」

●「公衛協発
ウォーキング事業」
4件の新規取り組みスタート

健康ひろしま21では、日常的な歩数の目標として男性9千200歩以上、女性8千300歩以上を掲げています。平成22年度から取り組み始めた公衛協発ウォーキング事業では、



「ごみを拾いながらウォーキング・福山市宣山区公衛協(上)、ウォーキングの途中で新たなスポーツ「クッパ」に挑戦 海田町公衛協(下)」

衛協のPRを行い、健康づくり事業の拡充を目指しています。「はじめて実践コース」継続実践コース「2つのコースを設け、公衛協の実践状況に応じて選択し、推進します。」

平成28年度は、27の市町地区・学区公衛協が事業を実施し、そのうち4件のはじめて実

践コースが取り組まれました。ただ歩くだけでなく、公衛協らしさをどのように発揮するかが引き続き課題となります。

平成29年度の重点メニューは、これら4つの事業に「がん検診へ行こうよ」キャンペーン事業」が新たに加わります。当協会HPから各事業の実施要領をご確認頂き、積極的に活用して地域の環境・健康の向上、公衛協活動の活性化に役立ててください。

(地域活動支援センター)

【坂町】坂町悠々健康ウォーキング

3月26日、安芸郡坂町において「第6回坂町悠々健康ウォーキング大会」が開催され、親子連れから健脚自慢まで、約1,000人が参加しました。コースは2km、5km、10kmの3種類で、ベビーカーでも参加可能なものから標高188.7mの山道を含む険しいものまであり、参加者はそれぞれのペースで各コースを楽しみながら歩きました。会場では特産のかき雑炊がふるまわれたほか、体力や年齢のチェック、栄養について学べるコーナーなど、健康に関する展示もありました。



【廿日市市】はつかいち桜まつり

4月2日、廿日市市昭北グラウンドを会場に、第28回はつかいち桜まつりが開催され、午後から雨となったにもかかわらず、3万8千人の来場がありました。

廿日市市公衛協では、来場者にごん検診を呼びかけ、啓発用ティッシュ500個を配布したほか、牛乳パック10枚とトイレトペーパー1個を交換するコーナーを出展し、牛乳パックを持った来場者で長い列ができました。行列に並ぶ家族からは「毎回交換に來ています」「無くなるから早く來ました」な

春のイベントで推進委員が活躍 恒例の活動が人気に

どの声が聞かれ、用意した2,300個余りのトイレトペーパー全てがなくなり、交換できなかった人たちには次回の開催予定が案内されました。

また、地球温暖化対策はつかいちさくら協議会では、脱温暖化に関するパネル展示とエコクイズを実施し、子どもから大人まで多くの人でにぎわいました。

(地域活動支援センター)



リサイクル容器の分別指導・坂町公衛協(左)、牛乳パックの交換に並ぶ行列・廿日市市公衛協(右)

足裏からはじまる健康法

ストレッチボール＆解説本を販売開始



当協会は、健康づくりのためのセルフケアグッズ『ラヴァボールミニ』(正式表記: Lov-a-Ball mini)の販売を開始しました。商品は、Ｊーサーキット(株)(兵庫県西宮市羽衣町)のＪ・アライ氏と共同で開発したもので、小型のストレッチボール2個(1個約150g)と卓上カレンダータイプの解説本がセットになっています。販売価格は、2千500円(税別)です。

この商品は、当協会が県民の健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)の延伸に寄与することを掲げた『環保協健康長寿支援構想(28年3月策定)』の環として開発したもので、日常生活の中で気軽に利用いただけるよう工夫しています。

キャッチフレーズは、『足裏からはじまる健康法』。足裏は体の土台です。足裏の少しの傾きが、上に連なる骨の配列を悪くし、関節の歪みや痛みの原因になる恐れがあります。これを何とかしたいとの思いから、『ラヴァボールミニ』が誕生しました。解説本では、主に足

裏と脚に注目したストレッチを紹介しています。ボールに身を委ねるだけで作用を体感することができ、動きを加えることでより効果を高めます。解説本の構成は、緊張した足裏の筋肉をほぐすことから始まり、扁平足や浮指(足指が地面に付いていない状態)、外反母趾など足裏に関わりのある悩み別の対処法を紹介しています。

また、脚の悩み別でO脚やヒザ痛、脚全体の疲れの対処法、家庭やオフィスで椅子に座ったままリフレッシュできるような肩こりや首こりの対処法なども紹介しています。

商品の販売方法については、当協会が直接販売するほか、指定代理店を通じた販売、健康づくりをテーマにしたセミナーやイベントなどで販売します。また、Web通販サービスAmazonでの販売や書店(広島市中心)での販売も準備中です。詳しくは当協会のホームページお知らせをご覧ください。(新事業開発課)

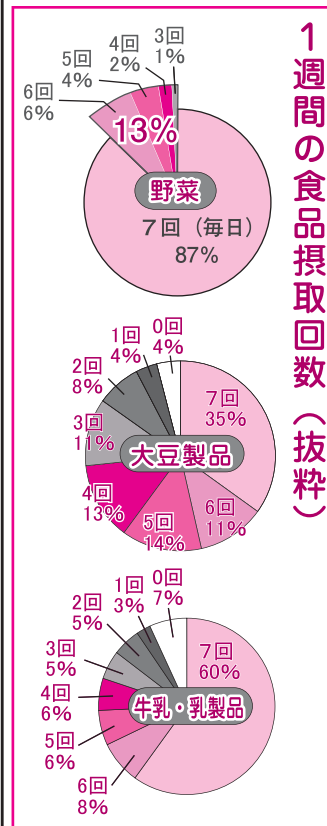


『Lov-a-Ball mini』のパッケージ。ボール2つと、ストレッチ解説本が同封される(上)。ストレッチ解説本は、卓上カレンダー式で、足裏の悩み別対象法などを紹介(下)。

※O脚(おーきゃく) 膝関節の所で、左右の脚が外側に曲つてO字状を呈するもの。内反膝(ないはん)は、(出典:デジタル大辞泉)

1万人の食チェックデータを読む

主食・主菜・副菜をとりそろえよう



前回、食育推進基本計画を紹介しました。今回は、平成28年度の「1万人の食チェック事業」の集計結果について、管理栄養士としてコメントします。平成28年度は22公衛協、3千286人が食チェック事業に参加されました。実践率は36%、平成23年度に比べて20%も増加しており、着実に「食

育の実践の環」が広がっているようです。今回から調査内容が、従来の食品数を数える方法から毎日摂取した食品群をチェックする頻度調査になりました。食チェックカードは簡単にわかりやすく、パラスのよい食生活の実践に役立ったようです。

まず今回の調査で驚いたのは、野菜の摂取頻度の少なさです。毎日摂取した人は87%でしたが、残り13%は全く野菜を食べない日があったと回答しました。健康づくりに野菜は欠かせません。毎食または1日350gとりたいたいものです。

次に生活習慣病や骨粗しょう症の予防に欠かせない大豆製品と乳製品です。毎日とりたいたいの食品ですが、大豆製品を毎日食べる人は35%、乳製品は60%で全くとらない人が7%でした。また、動物性食品はよく摂取されている印象です。週5回以上摂取している割合を見ると、肉類と卵が62%、魚48%で、肉や卵の摂取頻度が高いようです。

食事の基本は、主食(穀物)、主菜(肉・魚・卵・大豆製品)、副菜(野菜、海藻など)を毎食そろえることです。主食と野菜は1日3回、1日1回とりたいのは肉・魚・卵・大豆製品・果物・海藻・きのこ類・イモ類です。食育推進基本計画では、「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合」を26年度の57.7%から平成32年度70%以上とすることが目標となっています。食のチェック事業を通して食生活への意識をより高め、目標の達成に貢献し、健康長寿を目指したいものです。

(健康増進課 笠毛郁江)

1万人の食チェックカード

2016年6月19日(日)～25日(土)

氏名	性別	年齢	職業	食生活	運動	睡眠	ストレス	健康
山田 太郎	男	45	会社員	毎日野菜を食べています	毎日運動しています	毎日7時間以上寝ています	ストレスを感じていません	健康です
田中 花子	女	35	主婦	毎日野菜を食べています	毎日運動しています	毎日7時間以上寝ています	ストレスを感じていません	健康です

平成28年度食チェックカード

環保協の環境生活センター

⑦ 環境保全課

神の宿る島に守られたミヤジマトンボ

生息状況の把握が大切

環境生活センター環境保全課は、環境コンサルタント業務や生物調査業務を行っています。今回は、希少野生生物「ミヤジマトンボ」のモニタリング調査について紹介します。

ミヤジマトンボは、シオカラトンボによく似た細身できゃしゃなトンボで、国内では宮島にしか生息していません。生息環境は、満潮時に海水が入りこむ「潮汐(ちょうせき)湿地」です。この特殊な生息環境は、かつては瀬戸内海に多く存在したようですが、沿岸道路の整備や埋め立てなどによってほとんどが消失しました。宮島は、古代より「神が宿る島」として自然環境が大切に守ら



マーキングしたオスの成虫(上)、生息地の潮汐湿地(下)

ニタリング調査が行われています。この調査は、「ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会」から助言・指導を受けて進めており、環境保全課は2007年度のスタート当初から調査に携わり、現地調査を行ってきました。

現地調査は、個体の殺傷や生息地の踏み荒らしに細心の注意を払いながら行います。主な調査は成虫に個体番号を付けて発生数を調べる「マーキング調査」で、生息地の水質や環境の確認も行います。また、最近は島内で増加したイノシシによる生息地の植生被害が顕著になったため、センサーカメラによる監視、イノシシ防護柵

の設置と柵の点検なども併せて行っています。

ミヤジマトンボを取り巻く環境は、年々変化しています。広島県が誇るべきミヤジマトンボを守るため、今後も継続したモニタリングが大切です。

近年、大型台風による生息地の被害が頻発し、激減したため、保護対策が進められ、環境省による生息数や生息環境のモ



公益財団法人予防医学事業中央会・環保協

「研究成果発表と意見交換による技術力の共有と向上」 「第51回予防医学技術研究会議」開催

公益財団法人予防医学事業中央会が主催する「予防医学技術研究会議」は、毎年2月頃に全国の33支部が持ち回りで開催しており、予防医学活動の推進という理念のもと、検査・健診、保健指導の導入や技術・指導における研さんと開発を目的として実施されています。平成28年度第51回会議は、広島県支部である当協会が予防医学事業中央会とともに主催しました。2月23日・24日の両日、広島県医師会館で開催した会議には、全国各支部、当協会スタッフ、医療の関連業者など総勢270人が参集し、盛会のうちに終了しました。

教育講演

会議の目玉である教育講演では、自治医科大学名誉教授・予防医学事業中央会櫻林郁之介理事長を座長とし、当協会の評議員であり、広島大学大学院医歯薬保健学研究疫学・疾病制御学教授の田中純子先生に「疾病予防と制御における健診・検診の役割について」と題してご講演をいただきました。

疫学的視点からみた疾病対策について、肝炎ウィルス検診や大腸がん検診などの成果を示すことにより、健診・検診が健康や疾病予防・制御とどのように関わっているのかを、多様な統計数値から分かりやすく説明されました。2月24日の中国新聞朝刊には、「検診でがんのリスクを指摘されなが

ら放置する人が多いと指摘。精密検査の受診につながるよう、検診機関は結果通知の仕方を工夫してほしい。」と報道されました。また、3月22日の中国新聞朝刊では、大腸がん検診で「便に血が混じっている」「便潜血陽性と判定されてすぐに精密検査（大腸内視鏡検査）を受診した人」と放置した経験のある人では、進行がんの発見率に約12倍の開きがあることが報道されました。これは田中先生が講演の中でも指摘された内容であり、記事の中でも田中先生の発言としてまずは便潜血検査を毎年受けること。陽性なら痔のせいだなどと思い込まず、速やかに精密検査を受けてほしい。それが自らの命を救うことにつながる」と記されていました。

研究発表

研究発表では、各支部から過去最高となる91題の演題が発表されました。当協会は健診技術・検査技術、健康支援、環境検査など8分野で、10題の発表を行いました（下表参照）。

日頃の取り組みについて発表した当協会の職員は、発表後の質疑などを通して他都府県支部の職員と率直な意見交換を行いました。受診者に安全な健診を実施するための取り組みについて、同様の事例や違う角度からのアプローチがあることを知りました。また、法律改正により新たに始まったストレスチェックでは、実施規



当会理事長佐藤均の挨拶で開会（上）、グループ別の研究発表で発表する当会職員健康増進課技師 岡本沙央理（中）、同医師長 富永晃一（下）

に分かれ、グループの研究発表は座長によって進行されました。当協会からは右表の3人が座長として研究発表の進行と取りまとめを行いました。

会議の締めくくりとして「新しい健康増進事業の構築」というテーマでフォーラムディスカッションが行われ、健康増進課の笠毛郁江課長が発表を行うとともに、健康増進事業における問題点や今後の展望について議論を行いました。

2日間の会議を通じて、他都府県の支部で行われている、正確、効率

第52回の予防医学技術研究会議は、長崎県で開催される予定です。（健康科学センター）

キーワード 健診と検診の違い

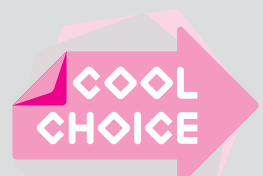
健診は健康診断のことで、健康であるか確認をするために「病気の危険因子」があるか否かを見ていくものであり、特定の病気を発見していくものではありません。一方、検診は特定の病気を早期に発見し、早期に治療することを目的としています。

環保協職員の研究発表一覧

研究分野	発表内容	発表者
健診技術	受診者と看護師を守る安全・安心な採血の取り組み ー取り組み後の経過報告ー	ドック課主任技師 東浦 景子
	運転業務従事者へのPSG検査実施の報告	臨床検査課主任 中川 貴久美
環境検査	リステリア感染症予防のための遺伝子診断技術の有効性	食品衛生課技師 毛利 輝彦
	水質検査・管理におけるタブレットの活用について	環境生活センター次長 竹田 和志
メンタルヘルス	ストレスチェック実施状況と今後の課題	医局長 富永 晃一
健康支援	巡回型禁煙支援セミナーについて	健康増進課技師 岡本 沙央理
検査技術	ロックスインデックスと頸動脈エコー	臨床検査課技師 法谷 圭馬
胸部検診	低線量胸部CT検査が発見契機となった症例の報告	ドック課課長補佐 富士田 亮介
胃がん検診	受診者に安全で分かりやすい検査を実施するための取り組み	ドック課技師 桐山 あかね
業務改善	特殊健康診断の課題と展望	医局長 富永 晃一

研究発表の座長を務めた環保協職員

研究分野	座 長
環境検査	環境生活センター技術管理者 三枝 晃次郎
問診の活用	渉外課課長 新里 篤志
特定保健指導	健康増進課課長 笠毛 郁江



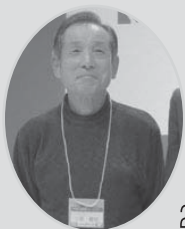
私のクールチョイス
⑤ 私のCOOL CHOICE
大募集!事業
受賞者(その1)

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介します。

【買い換え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど

【サービス】公共交通の利用やエコレールマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など

【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど



【買い換え】(台数を減らして高効率な冷蔵庫に)

農業のかたわら、エコINNくろせ(地域協議会)で活動しています。電気やガソリンなどの使用量を5年以上記録しており、特にエコドライブに取り組んでいます。最近、2台あった冷蔵庫を1台(エコナビ機能付き)に減らしました。また、季節によって生活する部屋を変えて、エアコン不要の生活を送っています。エコドライブは当然と思っていたので、正直、エコドライブでの受賞は意外でした。きっかけがあれば、誰でもクールチョイスに取り組めます。自分の生活を日常に見直し、無駄を減らしていきましょう。(小原義昭さん/エコINNくろせ)

第5回は「私のCOOL CHOICE大募集!」事業の受賞者のみなさまに、日頃取り組んでいる「私のクールチョイス」を紹介していただきます。



【ライフスタイル】(フードロスの削減)

くれ環境市民の会およびエコINNくろせで活動しています。近年は食品ロスが気になり、食品売り場ではなるべく賞味期限に近い食材を購入します。すぐに使い切る必要があるため、買い物前に冷蔵庫の中身を確認する習慣ができました。エコクッキングでは始めに「食べ残しをしない」「水を無駄にしない」ことを子どもたちに伝えます。その後の調理で残さず食べ、蛇口のひねり具合に気を使っている素直な子どもたちの姿を見ると嬉しくなります。今後いろいろな地域協議会の話聞ききたいので、交流しながら活動を盛り上げていきましょう。(吉川美幸さん/くれ環境市民の会・エコINNくろせ)



【ライフスタイル】(ものを大切に)

くれ環境市民の会での環境啓発活動と、女性グループでの着物を使った服、バッグへのリフォームを中心に活動しています。近年は「断捨離」の流れからか、もったいない・モノを大切に使うという感覚が薄いと感じています。子どもたちに話しかけるときは「将来モノがなくなった時どうする?」と問いかけ、考えるきっかけを作ることを意識しています。古いものを大事にする心や、「自分ごと」として考えるきっかけとなればうれしいです。各地に仲間を増やしたいので、一緒に活動を続けて、がんばっていきましょう。(大野喜子さん/くれ環境市民の会)

～基礎研修のすすめ～
講師派遣と講師育成事業の活用を



平成28年度の基礎研修の開き方コース

基礎研修は、公衆衛生推進委員の任務や活動の進め方を学び、環境・健康募金(旧健康感謝募金)のしくみや各市町公衛協で掲げた事業などを理解してもらう研修会です。

新卒の推進委員を主な対象とし、「公衆衛生推進手帖」を活用して各市町公衛協が開催します。

講座形式で開催します。近隣公衛協にも開催情報を案内し、より多くの人が基礎研修の開催に係わるノウハウポイントを学べるようにします。出張講座の申し込みは、地域活動支援センターまでご連絡ください。

派遣しています。積極的なご利用下さい。また、基礎研修の講師育成にも力を入れており、毎年実施している専門研修「基礎研修の開き方コース」を、今年度は要望のあった各市町公衛協に、出張講座形式で開催します。

＜講師派遣について＞

- 派遣先:市町公衛協及び支部・地区・学区公衛協。
- 参加対象者:公衆衛生推進委員及び事務担当者、その他必要と認められる関係者。研修対象者の7割以上が参加できるように呼びかけて下さい。
- 所要時間:原則1時間
- 内容:「2017公衆衛生推進手帖」を使用した地区衛生組織活動概論、市町公衛協の活動テーマに沿った情報提供。手帖を持参するように呼びかけて下さい。(留意事項)

予め電話で日程を調整し、指定の申込書に必要事項を記入して、原則実施日の1週間前までに環境協地域活動支援センターへ提出してください。派遣する講師及び講師が使用する資料に係る経費は環境協が負担し、その他の経費は公衛協で負担してください。

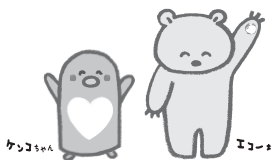
『ひろしまヘルスケアポイント』スタート



楽しくお得に健康づくりに取り組みましょう。詳しくはWEBでご確認ください。

ひろしまヘルスケアポイント
<https://point.hm-net.or.jp/KenminPoint/>

平成28年度
地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成28年度で57回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)

57,608,831



市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,667,450	97.0
海田町	2,399,179	94.9
熊野町	1,433,640	100.9
坂町	374,100	107.7
江田島市	1,854,150	99.0
竹原市	1,679,900	97.6
大崎上島町	341,000	99.5
大竹市	2,536,362	100.0
廿日市市	3,387,952	99.8
廿日市市大野	2,527,300	99.7
廿日市市佐伯	411,121	102.1
廿日市市吉和	53,000	83.6
廿日市市宮島	203,605	97.5
安芸太田町	755,050	99.5

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	1,094,700	97.8
安芸高田市	2,141,100	99.7
東広島市	4,484,643	100.8
三原市	1,768,220	98.3
世羅町	908,950	95.9
尾道市	4,480,000	99.7
福山市	8,905,794	97.5
府中市	1,096,726	100.3
神石高原町	290,200	90.0
三次市	2,472,954	101.5
庄原市	2,520,870	103.3
呉市	7,765,653	97.3
その他	55,212	82.5
合計	57,608,831	98.8

市町別一覧表

※この表は、平成29年3月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

要綱を改正しました

平成29年4月1日付けで環境・健康募金の要綱を改正しました。2017公衆衛生推進手帖に掲載している要綱(p.48,49)の修正シールを配布しています。該当ページに貼付してご利用ください。

募金の流れ

